

## 令和5年度第1回あきる野市健康づくり推進協議会 報告（概要）

日 時 令和5年7月24日（月）  
午後7時00分～  
会 場 市役所5階503・504・  
505会議室及びweb

### 1 開会

○事務局から、あきる野市健康づくり推進協議会設置要綱第9条第3項の規定により、本協議会が成立していることを報告した。

### 2 挨拶

○健康課長、子ども家庭支援センター所長  
○令和5年度4月から、組織改正により健康課の所管であった母子保健係が、子ども家庭支援センターの所管になったことを報告した。

### 3 自己紹介

○参加委員20人の自己紹介及び事務局の職員紹介

### 4 正副会長の選出

○あきる野市健康づくり推進協議会設置要綱第7条第2項の規定により、会長、副会長を選出  
会長に清水宏一委員、副会長に吉田榮久夫委員が決定した。

### 5 正副会長挨拶

○清水会長、吉田副会長より挨拶

### 6 議題

○あきる野市健康づくり推進協議会設置要綱第9条第2項の規定により会長による議事の進行

#### (1) 令和4年度の主な健康課事業について（事務局説明）資料1

以下のとおりご質問をいただいた。

**質問** 歯周病検診で要精検者数の人数が231人だが、年齢別の内訳を教えてください。

**回答** 歯周病検診受診対象年齢は40歳、50歳、60歳、70歳の10歳刻みとなっている。手元に資料がないため、後日改めて回答する。（健康づくり係）

**質問** あきる野市の自殺者の人数を教えてください。

**回答** 令和4年1月から12月までの1年間の自殺者数は19人である。（健康づくり係）

**質問** 母子保健の延べ人数は、一人当たり何回か行って、延べ人数になっているのか。

**回答** 延べ人数の考え方については、一人の方が、複数回参加をする形で活動のカウントをしている。（母子保健係）

**質問** 自殺者の人数、令和4年で19人は、あきる野市の傾向的には増えているのか減っているのか。また、他市町村と比較して割合的には、あきる野市はどうか。

**回答** あきる野市の自殺者数について、毎年、警視庁で統計している自殺統計を指標としており、1月から12月までのあきる野市に住所を有する自殺者の統計で経過をみている。令和3年は6人で減少しており、令和2年と元年は17人、平成30年は18人、平均すると20人弱である。近隣市町村との比較については、人口規模も違い統計は出していない。全国と東京都は数字を公表しており、平成21年頃が一番多かったが年々減少

し、令和元年頃が一番減少している。令和2年・3年・4年からは、少しずつだが、全国も東京都も増加傾向である。(健康づくり係)

**質問** 高齢者インフルエンザと高齢者肺炎球菌ワクチン、他と比較して接種率が低いように感じる。今後、接種率を増やすために、どのような対策をお考えですか。

**回答** 高齢者インフルエンザと高齢者肺炎球菌ワクチンは、努力義務がなく全員に勧奨していないため、広報紙や市ホームページなどで周知していく。(予防推進係)

**質問** 予防推進の中で、日本脳炎の特例対象者というのは、どのような方かお聞きしたい。

**回答** 日本脳炎のワクチンで、以前に副反応が起きたことがあり、新しいワクチンが開発・使用されるまでの間、接種を控えていた方、特例的に接種年齢を上げて接種する機会を設けている方のことである。(予防推進係)

## (2) 令和5年度の事業について(事務局説明)資料2

以下のとおりご質問をいただいた。

**質問** 自殺対策について、若い世代や女性の自殺が増えている状況で、令和4年度に学校保健と連携した健康教育などの事業を実施されていると思うが、令和5年度の自殺対策として学校の健康に関する事業、学校保健やこころの健康対策として、特に強化したところを教えてください。

**回答** 母子保健係の保健師が、市内中学校に出向き、いのちの大切さを伝える「いのちの授業」を実施した。自殺対策事業ではないが、いのちの大切さを伝える意味で報告させていただく。(母子保健係)

**質問** 地域イキイキ元気づくり事業について、48か所というのは、自治会単位で行っているのかお聞きしたい。

**回答** 会によっては複数の町内会で行っているところがあるため、実際に参加している町内会・自治会はもう少し多い形になる。(健康づくり係)

**質問** 第9波のコロナ拡大の状況が予想されている。患者数をあきる野市ではどのくらい把握しているか。

**回答** 以前は東京都の公表で、患者数は市にも伝えられたが、5類になった頃から定点把握になり、インフルエンザと同様に医療機関でどのくらいの患者が出たかという形の集計に変わっている。全数把握にはなっていないため、今現在どのくらいの患者がいるか把握できていない。(予防推進係)

### 意見等

○地域イキイキ健康づくりの関係で、健康づくり市民推進委員の推薦依頼を自治会長宛にしていると思うが、どこの自治会も高齢化が進み自治会長をやるだけでも大変で、さらに委員を選出するのは厳しい状況だと思われる。できれば委員の選出方法をご検討願いたい。

また、地域によると思うが、自治会加入率も50%切っており、参加率も下がっている。推進委員の負担も増えていると思われる、今後、地域にあった方法をご検討願いたい。

○地域イキイキ元気づくり事業は、何回か参加したが、非常によい事業だと思っている。

しかし、男性の参加率が低い。女性たちが大勢いるなかで、男性としては、照れくさい部分がある。何かもうひと工夫あればよいのではないか。我々と同じ年代の高齢者の参加はコミュニティの形成も含めて、結果的によいと思うので、推進してもらいたい。

○男性の参加が非常に少ないので、町内会・自治会に協力してもらい、参加していただければ、あきる野市健康づくり市民推進委員のOBとして嬉しく思う。

### (3) 第26回あきる野市健康のつどいについて（事務局説明）資料3

以下のとおりご質問をいただいた。

**質問** 規模について、コロナ以前の状況に戻そうとしているのか。昨年度、非常に縮小した形で行われたが、今回のこの規模は、どの程度をイメージすればよろしいか。

**回答** コロナ前の規模までは想定していない。昨年度と同様、もしくは周知等に力を入れる形で同等程度ということで予定をしている。（健康づくり係）

### (4) めざせ健康あきる野21(第二次)について（事務局説明）資料4-1、4-2、4-3

以下のとおりご質問をいただいた。

**質問** 資料4-2の8について、地域イキイキ元気づくり事業の中で、町内会・自治会、民生児童委員、ふれあい福祉委員と協力して地域の会館でやっているところがあるが、私の自治会では、コロナ前までは、そのような形だったが、コロナ後からは推進委員だけで、他の方々の協力はない。これは自治会によって違うのか。

**回答** 自治会によって、コロナ前まで協力いただいていたところと、推進委員の協力のみというところに分かれている。以前は受付などを推進委員にお願いしていたところもあったが、人との接触を減らすため、受付を職員で行うなど、コロナ前までに戻っていない自治会もあると思われる。（健康づくり係）

**質問** 随時、事業内容は、世の中の様子によって変わり、自治会役員さんの話合いで変わってくるということですね。

**回答** はい、こちらも協力いただけるよう、皆に声かけをしていきたいと思う。（健康づくり係）

**質問** 資料4-1の第二次計画、後期に向けての計画について、自殺対策の学校教育の連動や地域のつながりなどを含め、課題として、介護予防や健康などが比較的高年齢になってから気をつけようと話をしているが、実際には幼少期も含めて若年層からのアプローチが必要ではないか。

もう一方で、職域という視点を入れていったらどうか。地域の繋がりとして町内会・自治会も大事だが、あきる野市内にある事業所・会社と行政機関、または我々のような協議会が連動することが重要ではないか。地域活動への参加も市民だけでなく、従業員にも参加していただくことを検討してみるとよいのではないか。職域という概念、また学校という概念を入れていったらいかがかと思う。ご検討いただきたい。

**回答** 貴重なご意見ありがとうございます。今後、検討させていただければと思う。（健康づくり係）

### 意見等

○高齢者のフレイル予防、若年者の低栄養が増えていることが課題として挙げられており、日本は、子どもの頃から生活習慣病の予防に取り組まなくてはならない状況になっている。高齢者に関しては独居も多く、1人だと食べる種類が少なく低栄養の問題が出てきている。余暇を楽しんだり、人と一緒に食事をしたり、ボランティアをすることで、食欲が向上する調査結果が出ていることから、チーム食生活レモンに、独居の方をなるべく連れ出して大学生や地域の若い人がサポートに入るような、世代間交流や、子どもの生活習慣病予防も踏まえた親子の料理教室の開催など、コロナが5類に移行し、今後できることが多くな

と思われる。チーム食生活レモンの活動を増やすために、地産地消のレシピの配布や、ネット環境を利用したり、いろいろな方法で周知していただきたい。

そして、昨年「健康のつどい」に参加したが、会場のメンバーが生き生きしていて、とても良かった。少しでも多くの高齢者の方に「健康のつどい」を知ってもらい、外に出て、身体活動を上げていただき、食欲を増す、低栄養を回避するための活動を期待している。

○あきる野市子ども育成リーダーに入らせていただき、夏休みに、親子であきる野市で取れる野菜を使った料理教室の計画をしている。チーム食生活レモンの方に協力していただき、こういう計画も、これからさせていただきたいと思っている。

○スポーツ協会では、今、31団体が活動しているが、団体によっては大分、人数が少なくなってきたり、活動の場で縮小されてきてると聞いている。

地域の活動、自治会など、いろいろあるかと思が、あきる野で働いてくれる人たちが、スポーツ活動にも参加していただけたらと思っている。是非協力をお願いしたい。

## (5) その他

### 意見等

○各種検診で、歯周病検診の要検査数が50%を超えるということで質問がありましたが、歯周病学会が行っているデータでは、30歳以上で80%が歯周病にかかっているということです。日本でも全体にそのぐらい。検査数は、要検査数が50%くらいというのは、そんなに多い方ではないのかもしれませんが。歯周病検査をすることで、今まで歯科医院に行っていなかった人たちが歯科医院に来て、歯周病ということがわかって、歯周病は、心臓病、脳血管障害、糖尿病などと非常に関連しているし認知症とかもある。健康事業を行うことは、とても重要で、そういう面をずっと続けるということが必要ではないかと思う。

## 7 閉 会

○次回の会議は2月頃を予定している。日程が決まり次第各委員へ連絡する。

○吉田副会長より閉会の挨拶

以上

### 後日回答するとした質問の回答について

**質問** 歯周病検診で要精検者数の人数が231人だが、年齢別の内訳を教えてください。

**回答** 歯周病検診受診対象年齢は40歳、50歳、60歳、70歳の10歳刻みとなっている。年齢別要精検者数は、40歳36人、50歳61人、60歳62人、70歳72人である。(健康づくり係)